

出張医学教育FD (南長野医療センター篠ノ井総合病院)

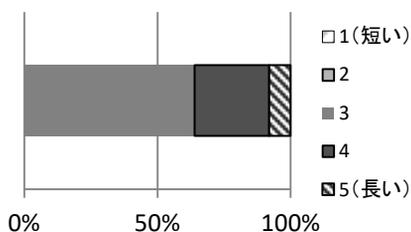
【日 時】 令和元年 10月21日(月)

【参加人数】 63名

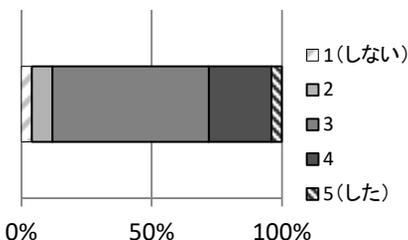
【講 師】 多田 剛

【内 容】 参加型臨床実習のすすめ方

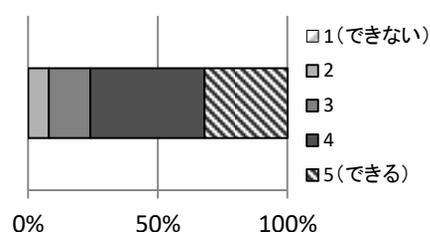
FDの開催時間はいかがでしたか。



FDはニーズにマッチしましたか。



学生の評価ができるようになりますか。



参加者の意見

FDでわかったこと	FDで疑問に残ったこと	ご意見
学生に仕事をさせること。	世界水準の医学生は何を求められるのか。	ありがとうございました。
自己紹介をする機会を設けるのは重要。	ポートフォリオの実際。	話が長い。もう少し短くしてもらっても理解できます。
行動レポートを書かせることが大事。	150通りになってから、整形外科には学生実習が来ておりません。	今後ともよろしく願います。
ポートフォリオについて	どのへんまで、やってもらって良いのか。	大変有用なお話でしたが、学生が来ないことには指導できません。
実習では任務を与える。終了時に評価する。	正確に学生がしてもよい事がわからなかった。	昼間に学生と話す時間はない。夜は帰してと言われると、指導不能。
何を求められているのか理解できた。		患者さんのカルテを学生に書かせる事ができない。
参加させる。		
学生の評価。ポートフォリオ。		
国際認証が必要な理由など		
学生にも実臨床に積極的に関わってもらうこと。		
実際の現場をみてもらい、カルテ記載や、ベッドサイドへ行って一緒に医療を体験していただく事が大切と思いました。		
学生にも実臨床に積極的に関わってもらうこと。実技を学ばせるべきである点。		
学生の医学教育が変わったこと。		
学生をチームの一員としてむかえること。		